

拝啓 4月もはや下旬、連休の前の時期ですが、暖かい日があったり、風の寒い日があったり、今年は気候が安定していないように思います。お変わりございませんか。いつもエンカウンターをお読みいただきありがとうございます。近所の公園では、さくら、こぶしなど4月始めの花が散って、ハナミズキなどが咲いています。これからは木の花が次々と咲く時期です。

今月は、小西先生の「ローマ人への手紙講解説教」からの引用の第12回目です。ロマ書10章から12章のあたりです。「主の御名を呼ぶくびきは易い」、「心は動く、頼りになるのは行」、「一人の信者で日本は改める」とかの見出しは、引用した文章の中にある大切な言葉を探して、私がつけています。

今回は、ロマ書12章の講解で、「謙遜」について、何回か説明されております。「キリスト教の謙遜とは」という一節の最後に、「日本流に、人に譲ったりすることを意味していません。自分自身の価値を知り、遠慮せずに、目なら目なりに、自分の力が三なら三の力を働かすこと、これをキリスト教では謙遜というのであります。」と説明されています。

今井館の集会室をお借りして、毎月第2、第4日曜日に、少人数で、小西先生のテープによる礼拝を行なっています。4月14日は、「私の人生」という題の昭和43年6月2日の説教でした。その関係で、当時の高円寺東教会月刊伝道誌「よろこび」の43年6月号を開いて見ました。そうしましたら、驚いたことに、私たちの結婚式の小西先生の式辞と祝賀会祝辞が出ていました。

披露宴祝辞に、「内村鑑三が『咲く花は多し実となるは多し、されど熟するは少し。』上の原理は信仰者にも当てはまる。聖書には『信仰は聞くことによるのであり、聞くことはキリストの言葉から来るのである』（ロマ10・17）これが信仰を受けかつ持つ唯一、無二の方法である。これを終生続けられ、金婚式を、これは2018年になるから、科学知識は発達し、物質文明は高度の発展を遂げているであろうが、このYMCAにおいて、世の光、血の塩としての職分を果たしつつ挙行せられんことを願います。この場所は丁度50年前、私が一高時代内村鑑三の説教を始めて聞きし場所である。本日は私一人で凡人の姿で君たちの結婚式をお祝いしているが、金婚式には師の内村鑑三と2人にて、天より参加してお祝いするであろう。」とあるのを読んで、涙が溢れ出ました。私たちの結婚式は、昭和43年5月18日、神田美土代町のYMCAでした。司式小西先生、媒酌人は竹内藤男・要子建設省都市局長御夫妻でした。

これから、最もよい気候の時期となります。どうぞ、お身体ご自愛のほど、祈り申し上げます。

敬具

平成25年4月26日

山口周三

エンカウンター of 読者各位